

第2回藤沢市都市マスタープラン改定



# 「ブレスト会議」

*Fujisawa Urban Master Plan  
Brain – Storming Meeting*



2025年（令和7年）6月25日（水）18:30～20:30  
藤沢市役所 本庁舎5階 5-1・5-2会議室

# 第2回ブレスト会議の概要

## ①開催目的

- 活動団体、企業など市内のまちづくりに関係する方や公募の市民の参加により、都市マスタープランに描くべきビジョンや取組の意向について把握する。

- ① 市民等が「共有」できる「将来」（ビジョン）検討のためのキーワード抽出
- ② 市民等が望む取組イメージの抽出（取組と連携・支援の体制・プロセス検討への活用）

## ②開催概要

日時：6月25日（水）18時半～20時半

場所：藤沢市役所本庁舎会議室

参加者数：35名

検討テーマ

- 1) 場のビジョン案は藤沢で望む未来か
- 2) 「場」を実現するために誰がどう協力・活動するのがよいか

検討方法：6つのテーブルに分かれてグループワーク

## ③参加者属性

活動団体：18名

公的団体：2名

企業：3名

公募参加者：12名



藤沢市都市マスタープラン改定

## 「第2回ブレスト会議」参加者募集！

Fujisawa Urban Master Plan  
Brain - Storming Meeting



2025 **6|25** **水** 藤沢市の都市計画に関する基本的な方針「藤沢市都市マスタープラン」を改定するにあたり、**多様な方々にご参加いただく**  
**18:30-20:30** 「ブレスト会議」を開催するため、参加者の募集を行います。

### 場所

藤沢市役所  
本庁舎5階 5-1・5-2会議室

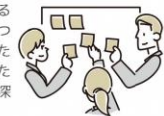
### 内容

① 都市マスタープランの検討状況について

② 藤沢の未来を考えるブレスト！

- ・ 藤沢の未来のまちの姿とは？
- ・ どんな活動、  
どんな協力で実現するか？

※「ブレスト（ブレイン・ストーミング）会議」として開催するもので、参加者の皆様をいくつかのグループに分けさせていただき、多様な視点から出されたアイデアを、意見交換により深めていきます。



### お申込み

#### 方法

電子申請による申込 または  
藤沢市都市計画課へ申込書を提出

#### 応募条件

- ・ 藤沢市在住もしくは在勤・在学の方
- ・ 藤沢市に業務で関わっている方
- ・ 藤沢市において市民活動やまちづくり等の活動をされている方

#### 公募枠

10名程度  
※応募多数の場合は抽選

参加申込みは **2025年（令和7年）6月20日** まで！

藤沢市電子申請システム e-kanagawa から  
※申込書は藤沢市 HP からダウンロードできます。 >>>



主催・お問合せ：藤沢市（都市計画課）0466-50-3537（直通）  
会議運営：（株）都市環境研究所

# 第2回ブレスト会議の概要



ブレスト会議で示した場のビジョン（都市の中でめざす多様な活動の場の様子）

# プログラム

- 18:30 開会
1. 趣旨説明
  - 18:45 2. 自己紹介（各テーブルで）
  - 18:55 3. グループワーク（60分）
  - 19:55 – 休憩（10分） –
  - 20:05 4. 発表・全体意見交換
  - 20:25 5. 総評
- 20:30 閉会

# ブレスト会議 開催風景



グループ討議の様子



グループ討議の発表

講評（中島会長・村山副会長）

## テーマ1 どんな「場のビジョン」が必要か？

- 立地特性毎に必要+特に重要な場は数多く抽出。
- ターミナル駅のような全市民が使う場の充実を求める声もある一方で、既存の空間や施設の用途を転換する前提の場も多い
- 農園や農地付き住宅、外国人、キッズスペースなど、利用者像やライフスタイルからの出てくる場も多い。
- 大学や小学校などの「学び」の場や、歴史資源の利活用や祭りなどの文化継承の場も抽出。



### イラストから抜けている場やポイントは？

#### <ターゲット>

- 高齢者
- 女性とファミリー・子ども
- 多世代・多様な人
- 文化志向・学びたい人
- 外国人

#### <場の性格>

- 開かれた場
- 学びの場
- 魅力伝達の場
- 繋がりをつくる場
- 活動が見える場
- 多文化共生の場
- 自己実現の場

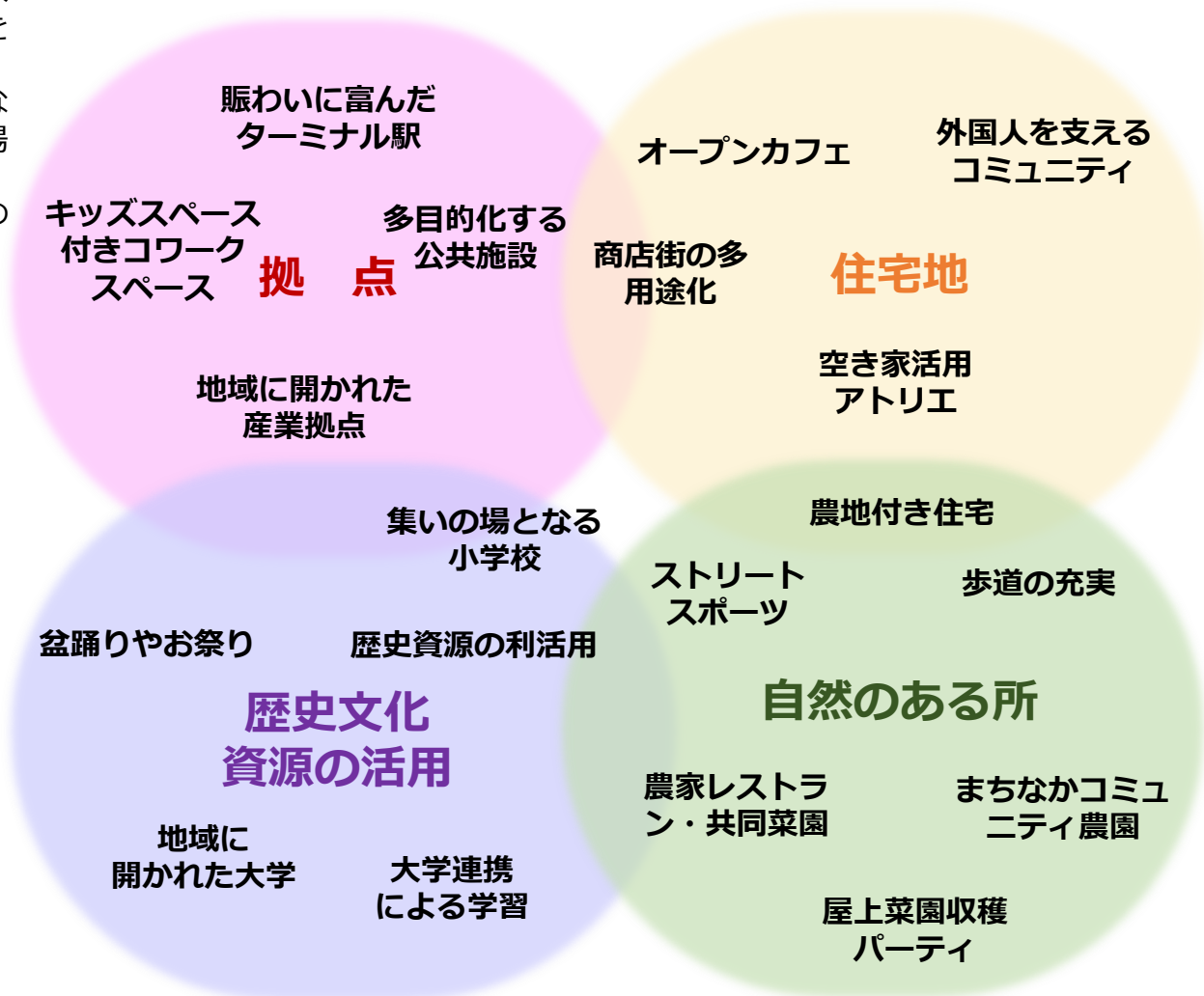
#### <機能例>

- まちごとホテル
- まちごと保育
- 演劇場・美術館
- 民間保育施設
- 森や河川活用
- 新モビリティの拠点

#### <テーマ・エリア例>

- スポーツ・文化活動の場
- 北部地域全体
- 体を使って遊ぶ場
- 生産する場

<投票された中で特に重要と考えられた場>



## テーマ2 「場」を実現するためにはどうするか？

### 使うひと



### 場をつくるひと・プレイヤー・サポーター



### 実現するためのアイデア

- まず思いを共有する場をつくり、プレイヤーを確保し、実験等を通じて事業の持続性を確認することが必要。
- 多くの人の参加を得るための工夫も必要であり、実現のための支援や後押し of 仕組みも必要とされた。

#### 共通の「思い」をつくる

- 人と人の接点づくり（コミュニケーションの場づくり）
- ビジョンづくり
- 場ではなく「コト」づくりからスタート

#### プレイヤーの確保

- やりたいを実現するルールづくり
- 企業誘致・スタートアップ支援
- アーティスト・アスリートの参加要請

#### 利用と参加の促進

- 「学び」の要素を加える（自然環境など）
- 観光客・外国人が利用しやすい雰囲気づくり
- 回遊のためのモビリティ確保
- 暑さを緩和する環境整備

#### 実現性の担保

- サウンディングや社会実験
- 事業採算の確認
- 皆で出資する仕組み
- 施設維持のための支援制度（歴史資源など）
- 保存活用事業のビジネス化

#### 支援・後押し of 仕組み

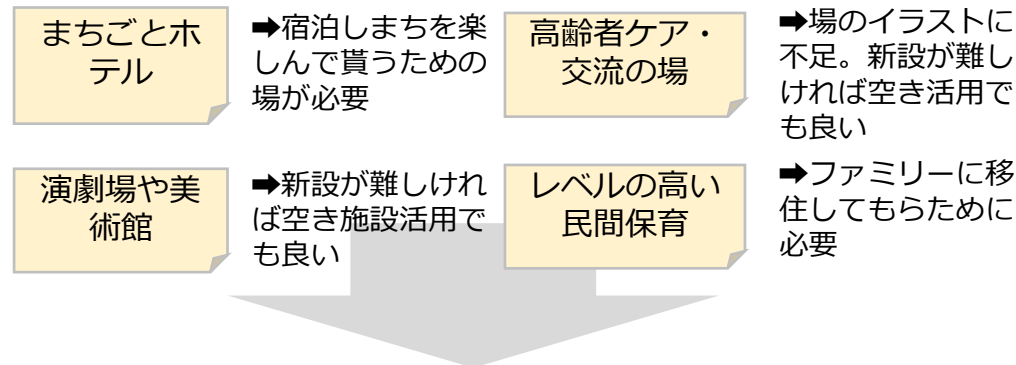
- 公共施設利用ルールの柔軟化
- 利用（用途）の規制緩和
- チャレンジの支援
- 民間利用に関する市の後押し（公認等）
- 行政・NPOによる情報発信
- 多言語サポート（発信場面・実施場面）

# テーマ1 どんな「場のビジョン」が必要か？ テーブルA

## 是非実現したい・強化したい場は？（イラストから）

種別	場のイラスト	票数
拠点	①キッズスペース付きコワーキングスペース	3
拠点	⑥新たな拠点となる新駅	3
拠点	②新たな交通拠点	1
拠点	⑦シェアモビリティ	1
拠点	⑥アーバンデザインセンター	1
拠点	⑧地域に開かれた産業拠点	1
住宅地	⑫商店街の多用途化	1
住宅地	⑪空き家活用のアトリエ	1
住宅地	⑭ライフラインを維持する人	1
住宅地	⑬外国人を支えるコミュニティ	2
住宅地	⑰再生エネルギーを活用する建物	2
歴史文化	⑳集いの場となる小学校	1
歴史文化	㉒歴史資源の利活用	2
歴史文化	㉓大学連携による学習	1
歴史文化	㉔小学生の研究発表	1
歴史文化	㉕市内をめぐる観光	1
自然	⑳コミュニティが生まれるマリンスポーツ	1
自然	㉓農地付き住宅	2
自然	ストリートスポーツ	1
自然	㉗シェアキッチンと農園	1

## イラストにない必要な「場」は？



## では、場づくり考えるターゲットと狙いは？

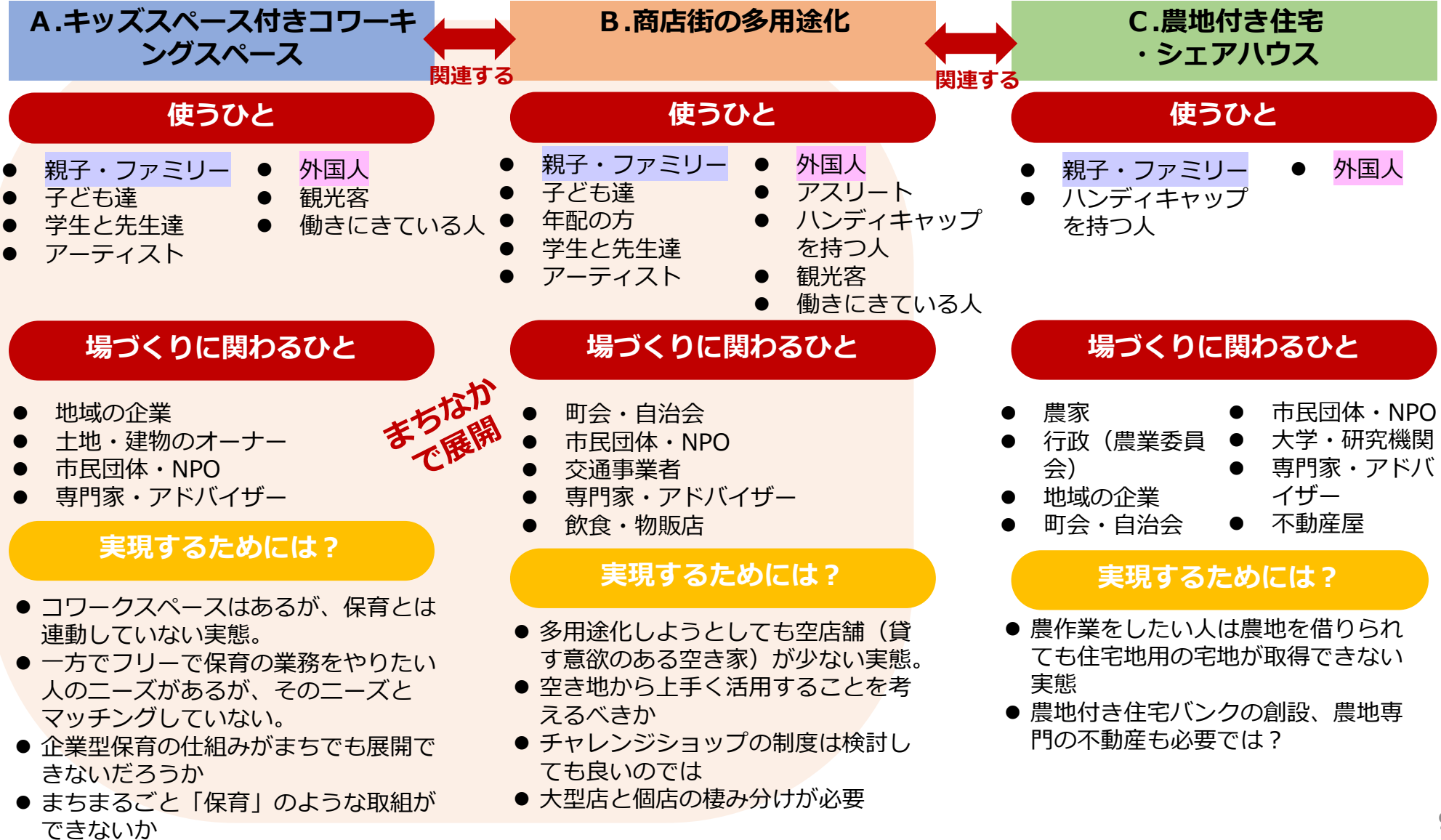
- いよいよ人口減少を迎える藤沢の未来を考えると、女性やファミリーが喜んで住んでくれるための環境や場が必要ではないか？
- 女性が好む場を特定するのは難しいが、ファミリーが喜んでくれるためには、安心して子育てができる、子どもと一緒に楽しめる場が重要になってくる。
- 一方で、年々増加する外国人も今後歓迎すべきひとであり、彼らのための場も必要。
- その観点で考えると、

- ①キッズスペース付きコワーキングスペース
- ⑫商店街の多用途化
- ⑳農地付き住宅・シェアハウス

の3つが関連して重要な場になるのではないか？



大事なこと：ファミリー（お母さん、子ども）、外国人がハッピーに暮らしてくれることとそのために必要な「場」づくり3つ



# テーマ1 どんな「場のビジョン」が必要か？ テーブルB

## 是非実現したい・強化したい場は？（イラストから）

種別	場のイラスト	票数
拠点	①キッズスペース付きコワーキングスペース	1
拠点	③パーソナルモビリティ	1
拠点	④賑わい富んだターミナル駅	2
住宅地	⑪空き家活用のアトリエ	2
住宅地	⑬外国人を支えるコミュニティ	1
住宅地	⑭ライフラインを維持する人	1
住宅地	⑮コワーキングスペース	2
住宅地	⑯オープンカフェ	3
住宅地	⑰再生エネルギーを活用する建物	1
住宅地	⑰木材を活用したCo2削減建物	2
歴史文化	⑳盆踊り	1
歴史文化	㉑歴史資源の利活用	1
歴史文化	㉒小学生の研究発表	1
歴史文化	㉓市内を巡る観光	1
自然	㉔コミュニティが生まれるマリンスポーツ	1
自然	㉕農地付き住宅	2
自然	㉖農家レストラン共同菜園	3
自然	㉗遊休地活用	1
番号なし	地域に開かれた大学	1
番号なし	ストリートスポーツ	1

## イラストにない必要な「場」は？

### 北部のまちづくり

人を呼び込む生活・開発モデル農園

藤沢西部 辻堂から北への交通機関

市内南北横断の巡回バス

小農地・遊林地に点在する滞在型 市民農園群 農業体験

インクルーシブなスペース 誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティカフェ

子供の遊園地 (特に北部)

多世代が楽しめる空間

➡場のイラストに不足。新設が難しいければ空き施設結末でも良い  
➡ファミリーに移住してもらったために必要

### スポーツ・文化のまちづくり

スケートボードパーク

スポーツ複合施設

音楽交流ができる場 (屋外)

### その他

マイクロビジネスを始めた人の拠点

フリーマーケット

交流と定住の間としての滞在を可能に二拠点生活

外国人だけに限らず多地域居住希望者を支えるコミュニティ

自分で作るインフラ「パーソナルインフラ」地域を整を備

だれもが先生、生徒になる百なりわい学校

防災施設等 海・河川

小中学校の側 “朝の学童施設”

レンタサイクル

## では、場づくり考えるターゲットは？

- 北部のまちづくり
- ⑯オープンカフェ (コミュニティのための場)
- ④賑わい富んだターミナル駅
- ストリートスポーツ

①北部のまちづくり  
(農・遊び)

ベースをつくる

交通  
事業者

行政

土地・  
建物の  
オーナー

サポーター

サービス提供者

地域の  
企業

農家

町会・  
自治会

学生と  
先生達

大学・  
研究機  
関

楽しむ人たち・参加する人

年配  
の方

親子・  
ファミ  
リー

観光客

市民団  
大・  
NPO

②新しいコンセプトのオープン  
カフェ+コミュニティ  
(福祉+aの概念)

場を作る

土地・  
建物の  
オーナー

飲食・  
物販店

地域の  
企業

提供者

サポーター

農家

専門家・  
アドバイ  
ザー

行政

③文化・スポーツ  
交流

場を作る

地域の  
企業

行政

土地・  
建物の  
オーナー

大学・  
研究機  
関

アイデア出し・利用者

学生と  
先生達

子ども  
たち

年配  
の方

親子・  
ファミ  
リー

プレイヤー

サポーター

アス  
リート

アーテ  
ィスト

専門家  
・  
アドバイ  
ザー

実現するためには？

- 協議会を開催する
- みんなでビジョンをつくる
- 規制緩和
- 現地見学会、説明会の開催

- 福祉的ではない、新たなコン  
セプト・かたち
- 採算性・持続性
- 地元野菜の活用
- イベント開催

- アスリートとの交流
- アーティスト展示会
- 子供達の社会教育の場でもある
- プレイヤー数に対して施設が足り  
ない。場を作るところから。

# テーマ1 どんな「場のビジョン」が必要か？ テーブルC

## 是非実現したい・強化したい場は？（イラストから）

種別	場のイラスト	票数
拠点	②新たな交通拠点	1
拠点	③パーソナルモビリティ	1
拠点	④賑わい富んだターミナル駅	2
拠点	⑤多目的化する公共施設	3
拠点	⑥新たな拠点となる新駅	1
拠点	⑧地域に開かれた産業拠点	4
住宅地	⑩地域での防災訓練	2
住宅地	⑮コワーキングスペース	1
住宅地	⑰再生エネルギーを活用する建物	1
歴史文化	⑳盆踊り	3
歴史文化	㉒集いの場となる小学校	1
歴史文化	㉔歴史文化の利活用	2
歴史文化	㉕大学連携による学習	1
歴史文化	㉗自然環境学習ツアー	2
歴史文化	地域に開かれた大学	1
自然	㉓歩道の充実	1
自然	㉔まちなかコミュニティ農園	2
自然	㉕農地付き住宅	2
自然	㉖研究機関・大学連携のイベント	1
自然	㉗農家レストラン	1
自然	㉘シェアキッチンと農園	1
自然	㉙遊休地活用	2
自然	㉚プレイパーク	1
自然	ストリートスポーツ	1

## イラストにない必要な「場」は？

森林、河川、海のある環境の利活用

➡ 藤沢市は自然がパッケージでそろっているの  
で、自然の循環・食物連鎖を体験できる場が  
あるとよい

漁業の利活用

➡ 農業を活かす場はあるが、漁業を活かす場が  
ないので、漁業の体験ができる場や海鮮を味  
わえる食堂などがあるとよい

耕作放棄地の利活用

➡ 耕作放棄地を利用して、食事に困っている子どもたち  
が農家を手伝って、食べ物をもらうという場ができない  
か

⑤多目的化する公共施設

➡ 学生が過ごせる場所が少ないので、公共施設  
に勉強できるスペースを増やしたい  
➡ 公共施設の稼働率に差があり、駅周辺の公共  
施設はなかなかとれない

⑧地域に開かれた産業拠点

➡ 企業が沢山あり、働く場所と住む場所が近い  
ところが藤沢市の良い点  
➡ 人口減少社会を迎え、産業振興が大切

㉔盆踊りやお祭りの継承

➡ 伝統文化にあこがれがあるので残したい  
➡ 神社仏閣を活かしたイベントはコミュニティ  
の絆を強めるので残したい  
➡ 担い手である町内会が下火になり、今後の継  
続が課題

## では、場づくり考えるターゲットは？

⑤多目的化する公共施設

⑧地域に開かれた産業拠点

㉔盆踊りやお祭りの継承

森林、河川、海のある環境の利活用

耕作放棄地の利活用

# Q2 誰がどう協力・活動するのがよいのでしょうか？ テーブルC

## ⑤多目的化する 公共施設

### プレイヤー

- 親子・ファミリー
- 年配の人
- 働きにきている人
- ハンディキャップをもつ人
- 専門家・アドバイザー
- 行政

### 実現するためには？

- 営利目的（不登校のための子どもの塾など）であると、公共施設を使うことができない

- 空家や空き店舗で始めても信頼が得られないので、市がなんらか支援してもらえるとよい
- スモールスタートがやりやすい場があるとよい

#### 【参考】

藤沢市では「トライアルサウンディング」という、市が保有する土地や公共施設を有効に活用するための社会実験を実施している。民間事業者や団体は、お試して公共施設等での事業や活動にチャレンジして、収益性や施設の使い勝手などの感触をつかむことができる

## ⑧地域に開かれた 産業拠点

### プレイヤー

- 地域の企業
- 子どもたち
- 年配の方（企業のOB）
- 学生と先生たち
- 行政
- 市民団体・NPO

### 実現するためには？

- ベットタウンではなく、市内で働く場所をふやすことが大切
- 敷地が広い企業があるが閉鎖的

- 今後も企業誘致したり、スタートアップ企業を増やす
  - 地域の人にもっと企業のことを知ってもらえる工夫をする
- 企業敷地を解放したイベントの実施
- 企業と自治会との連携
- 小中学校の社会科見学の実施

## ⑫盆踊り・お祭りの 継承

### プレイヤー

- 町会・自治会
- 親子・ファミリー
- 年配の人 ● 子どもたち
- 観光客・外国人
- アーティスト・アスリート
- 地域の企業 ● 行政

### 実現するためには？

- 共働きが増えてライフスタイルが変わり、町内会・子供会に参加する人が少なくなっている

- 担い手が減っているのだから、新たな担い手を受け入れることが大切
- 観光客や外国人が参加しやすい雰囲気
- 楽しめるような感じを出すためにアーティストやアスリートに参加してもらう
- 市やイベント会社の協力を仰ぐことも考えてもよい

## 森林・河川・海がある 環境の利活用

### プレイヤー

- 飲食・物販店
- 子どもたち
- 大学・研究機関

### 実現するためには？

- 森林・河川・海がある環境を活かして、食物連鎖や環境問題が学べる場をつくる

## 耕作放棄地の 利活用

### プレイヤー

- 農家
- 親子・ファミリー
- 地域の企業
- 市民団体・NPO

### 実現するためには？

- 耕作放棄地を利用して、食事に困っている子どもたちが農家を手伝って、食べ物もらうという場をつくる

## 是非実現したい・強化したい場は？（イラストから）

種別	場のイラスト	票数
拠点	②新たな交通拠点	1
拠点	④賑わい富んだターミナル駅	1
拠点	⑤多目的化する公共施設	1
拠点	⑥アーバンデザインセンター	1
住宅地	⑩地域での防災訓練	2
住宅地	⑪空き家活用のアトリエ	4
住宅地	⑫商店街の多用途化	2
住宅地	⑬外国人を支えるコミュニティ	3
住宅地	⑭ライフラインを維持する人	2
住宅地	⑯オープンカフェ	1
住宅地	⑰木材を使用したCO <sub>2</sub> 削減建物	1
住宅地	⑰再生エネルギーを活用する建物	1
歴史文化	⑳集いの場となる小学校	1
歴史文化	㉔歴史資源の利活用	4
歴史文化	㉗自然環境学習ツアー	1
自然	㉓観光・滞在拠点となるホテル	1
自然	㉒歩道の充実	4
自然	㉓川辺ウォーキング	1
自然	㉔まちなかコミュニティ農園	1
自然	㉕農地付住宅	1
自然	㉗農家レストラン	1
自然	㉘農家レストラン共同菜園	1
自然	㉚プレイパーク	1

## イラストで抜けている「場」や大事なポイントは？

**藤沢の魅力  
を伝える場**

- ➡宿泊場所を作り、藤沢を見てもらうことで、地元民のシビックプライド醸成
- ➡子どもたちに藤沢の自然の現状や歴史資源を伝え、感じてもらう
- ➡日本の文化である商店街と盆踊りの継承

**基盤の整備・維持**

- ➡主要道路の整備
- ➡利便性と安全性を兼ね備えた歩道の充実
- ➡すべての活動を下支えするライフラインの維持

**やりたいことの実現を支える場**

- ➡やりたいことを実現につなげる仕掛け人がまちなかに常駐する

**外から活動が見える場**

- ➡子どもたちが自由に遊べる場
- ➡学校は地域の多様な人が集まる拠点となる
- ➡自由に意見を交わす場を作り、地域のコミュニティを支える

**人と人との接点を作る場**

- ➡非常時に備えた日頃からの避難訓練と地域コミュニティ醸成
- ➡外国人との望ましい共生のあり方を模索
- ➡自己表現の場として空き家を活用し、回遊

## では、場づくり考えるターゲットと狙いは？

- ・人口減少の時代となり、**人と人とのつながり**がより求められる
- ・そのために、藤沢市にある資源をどう活かすか（㉔）、
- ・人と人とのつながりを作るために基盤をどのように構築するか（㉒）、
- ・より多様な方々とどのようにつながるのか（㉓）を考える。

㉔歴史資源の利活用

㉒歩道の充実

㉓外国人を支えるコミュニティ

大事なこと：オープンな場づくりにより、人と人とのつながりを育む

⑭ 歴史資源の利活用

プレイヤー

主なプレイヤー

- 土地・建物のオーナー
- アーティスト(外国人込)
- 市民団体・NPO
- 町会・自治会
- 行政

アドバイザー

- 市民団体・NPO
- 大学・研究機関
- 学生と先生たち

スポンサー

- 地域の企業

餅つき、祭り、梅干しづくり等の無形文化も繋ぎたい

訪れてほしい人

- 子どもたち
- 親子・ファミリー
- 観光客
- 年配の方
- ハンディキャップを持つ人

実現するためには？

- 土地・建物オーナーや利活用をするプレイヤーの世代変化が課題。
- 世代が入れ替わる際のサポートが必要。
- 歴史資源を商用的に利用することを好まないオーナーが多いが、維持するためには経済的な視点も必要。
- 歴史資源が分散配置→回遊するにはレンタサイクル等のモビリティも必要。
- 企業が歴史資源のライトアップをする、市民団体・NPOによるツアー等普段は届かない層を呼び込む工夫。

⑮ 歩道の充実

プレイヤー

整備する人

- 行政
- 交通事業者

専門家

- 専門家・アドバイザー

間に入り調整

利用者・要請者

- ハンディキャップを持つ人
- 土地・建物のオーナー
- 働きにきている人
- 親子・ファミリー
- 年配の方
- 子どもたち
- 観光客
- 町会・自治会
- 学生と先生たち

沿道の賑わいを出す人

- 飲食・物販店
- 市民団体・NPO
- 地域の企業
- アーティスト

実現するためには？

- 人と人との接点を作ることが目的。
- 単なる整備ではなく、マスタープランの作成により空間の将来像をまとめることが大事。マスタープランの内容により、沿道の利活用が決まる。
- トライアルサウンディングや社会実験が出来る仕組みが必要。
- 歩道の拡幅には住宅地集約により土地を作ることが必要。
- 暑さを緩和する歩道があると良い。

⑯ 外国人を支えるコミュニティ

プレイヤー

コミュニティに巻き込みたい人

- 外国人
- ハンディキャップを持つ人
- 子どもたち
- 年配の方

自然と交わる場

- 大学・研究機関
- 学生と先生たち

情報発信・サポート

- 行政
- 市民団体・NPO

企画・取り組みの発信

交流の場になり得るコミュニティ

- 飲食・物販店
- アーティスト
- アスリート
- 町会・自治会
- 農家
- 地域の企業
- 働きにきている人

実現するためには？

- 学校環境では留学生等、多様な人が自然と交わっている。
- 共通の趣味や目的を持つ人同士では国籍や立場は関係なく交流する。
- 交流のきっかけとなるイベントを実施し、行政やNPOが情報発信や言語のサポートをする。
- 外国人が何に困っているのか把握するために、行政による調査が必要。

# テーマ1 どんな「場のビジョン」が必要か？ テーブルE

## 是非実現したい・強化したい場は？（イラストから）

種別	場のイラスト	票数
拠点	①キッズスペース付ワーキングスペース	1
拠点	③パーソナルモビリティ	1
拠点	④賑わい富んだターミナル駅	1
拠点	⑤多目的化する公共施設	1
拠点	⑧地域に開かれた産業拠点	1
住宅地	⑪空き家活用アトリエ	3
住宅地	⑭ライフラインを維持する人	1
住宅地	⑮ワーキングスペース	1
住宅地	⑯オープンカフェ	1
歴史文化	⑳歴史資源の利活用	2
歴史文化	㉕大学連携による学習	1
自然	㉓歩道の充実	1
自然	㉔まちなかコミュニティ農園	1
自然	㉘農家レストラン共同菜園	1
自然	㉚遊休地活用	1
自然	ストリートスポーツ	1
自然	屋上庭園収穫パーティ	1

西北部の田園地帯において、市民農園と居住/滞在を組合せた暮らしを自律的に行いつつ、ノウハウの共有とIoTと用いた連携により充実・発展させていく方法を提案

## イラストにない必要な「場」は？

美術館

➡文化を志向する人が多いはずなのに、平塚・茅ヶ崎にある美術館がない

アリーナ

➡スポーツが行える拠点があるとよい

## では、場づくり考えるターゲットは？

⑤多目的化する公共施設

⑪空き家活用アトリエ

⑳歴史資源の利活用

- 生活の中に自然に農がある場があるとよい。その観点から、以下の場についても考えたい

㉔まちなかコミュニティ農園

㉘農家レストラン共同菜園

屋上庭園収穫パーティ

## 【参考・参加者からの提案】

### STABLE FARM CABIN

～藤沢市西北部における自律分散協調型の滞在型市民農園群構築と新たな生活モデルの構築～





大事なこと：一人一人が「必要とされている」「役に立っている」と感じられる場があること

⑪空き家活用アトリエ

使うひと

- 子どもたち
- 学生と先生たち
- アーティスト
- ハンディキャップをもつ人

場づくりに関わるひと

- 土地・建物のオーナー（場所の提供）
- 専門家・アドバイザー（契約行為を支援）
- 行政（空き家情報の提供）
- 大学・研究機関（研究活動の一環として支援）
- 市民団体・NPO（運営支援）
- 町会・自治会（空き家情報の提供）
- 地域の企業（資金提供）
- 飲食・物販店（飲食の提供があると居場所として従事する）

実現するためには？

- 土地・建物オーナーの了承が必要
  - ・貸したら返ってこないのではとの懸念がある
  - ・ある程度の賃料収入がほしい
- 空き家の情報が分からない
- 市外に通勤・通学の人が多いが、住む地域に居場所があるとよい
- 定期借家制度の活用・周知を図る
- 市の空き家バンク制度を活用する
- 町会・自治会の人には空き家の情報に詳しいのでは
- 司法書士などの専門家が賃貸契約をサポートする
- 地域の企業が運営資金等を提供する
- イトーヨーカドーは、いま巨大な空き家。活用できないか。

⑭まちなかコミュニティ農園

⑳農家レストラン共同菜園

屋上庭園収穫パーティ

- 農地細分化の進行
- 農家の高齢化と事業継承の困難さ
- 開発の進行に伴う農地保全の困難さ
- 市民が農に触れ合う機会を提供→まず農業への理解を深めてもらう

⑤多目的化する公共施設

使うひと

- 子どもたち

場づくりに関わるひと

- 行政（場所の提供）

実現するためには？

- 藤沢市民は、むしろ文化を発信している（例、市民オペラ）
- 市内には休日に屋内でゆっくりできる施設が少ない。
- 公共空間の使い方に対し寛容になる。（サンパール広場でやったプロレスイベントは過激だったが、実現できたおかげで続いている）
- 新しい市民会館の充実

㉒歴史資源の利活用

使うひと

- 観光客

場づくりに関わるひと

- 土地・建物のオーナー（場所の提供）
- 大学・研究機関（歴史的意義の裏付け）
- 行政（可能ならば取得する）

実現するためには？

- 歴史を体系的に学べる場所がない
- 単純に、壊すのはもったいない
- 有名でないものでも歴史的価値
- シビックプライドにつながる
- 文化財調査は費用負担が重い
- 利活用の事業者が見つからない（例、旧桔梗屋）
- 保存・活用事業がビジネスとして成立する必要がある

## 是非実現したい・強化したい場は？（イラストから）

種別	場のイラスト	票数
拠点	④賑わい富んだターミナル駅	2
拠点	⑥新たな拠点となる新駅	2
拠点	⑥アーバンデザインセンター	1
拠点	⑧地域に開かれた産業拠点	2
拠点	⑤多目的化する公共施設	1
拠点	③パーソナルビリティ	2
拠点	⑦シェアモビリティ	1
住宅地	⑩地域での防災訓練	1
住宅地	⑪空き家活用のアトリエ	2
住宅地	⑫商店街の多用途化	2
住宅地	⑭ライフラインを維持する人	1
歴史文化	⑲盆踊り	1
歴史文化	⑳集いの場となる小学校	1
歴史文化	㉑地域に開かれた大学	3
歴史文化	㉒歴史資源の利活用	2
歴史文化	㉓大学連携による学習	1
歴史文化	㉔市内をめぐる観光	1
自然や緑	㉕まちなかコミュニティ農園	1
自然や緑	㉖研究機関・大学連携のイベント	1
自然や緑	㉗農家レストラン	1
自然や緑	㉘プレイパーク	1

## イラストで抜けている「場」や大事なポイントは？

### 開かれた場

- ➔組織と組織ではなく、個人と組織がつながるように
- ➔ルールで締め出さないよう最低限のルールで多目的に
- ➔多文化共生を楽しめるインフラを
- ➔コンベンションホール、人が集う場を
- ➔避難所になっている学校でキャンプに開放して防災意識向上など
- ➔商店街の空き店舗等をまちなか交流広場に

### 学びの場

- ➔学びの場としての図書館、貸さない図書館など
- ➔学生が自習できる場
- ➔歴史資源の活用で文化の伝承、身近に感じられる場に
- ➔防犯を学ぶ場

### 産業の場

- ➔場の種別として「生産工業」も
- ➔木登り、ボール遊び、凧あげなど（藤沢で出来ない）
- ➔大規模な墓地の広場など活用できる場所はあるのでは
- ➔川辺のウォーキングには風情も大事

### 体を動かして遊べる場

### 人の循環を起こす場

- ➔北部と南部の人の循環を起こす二拠点居住の空き家活用
- ➔中途半端な空きスペースを活用できないか（二世帯住宅の片方）

### 新たなモビリティと拠点

- ➔ラストワンマイルの移動手段のシェア
- ➔ドローンタクシー発着場、ドローン物流の複数拠点
- ➔道路の質を高める
- ➔車中心だけでなく鉄道も中心のまちづくり

## では、場づくり考えるターゲットは？

学びの場

開かれた場  
大学・産業・学校等

## 学びの場

**開かれた場**  
大学・産業・学校等

をつくるには…

個人と組織が  
つながる場

多文化共生を  
楽しむインフラ

文化を身近に  
感じられる場

等々

## プレイヤー

著名人でなくても、知識人がいる！  
先生になれる人がいる！

- 大学・研究機関
- 学生と先生達
- 市民団体・NPO
- 町会・自治会
- 地域の企業
- 外国人
- 子ども達
- 年配の方
- ハンディキャップを持つ人

### 「大学」って？

- 研究活動しているグループ
- 「組織」としてではなく、細かくかかわる
- 卒業すると入れ替わるけど、人の循環はまちにとって貴重
- まちの中心に入ってもらって変化を起こしてもらおう

## 実現するためには？

### どう協力する？

- お互いが先生になる
- プレイヤーそれぞれのメリットを分かりやすく
- プレイヤーがやりたい事ができるように（ルールで締め出さない）
- 色々な思惑の人たちのかすがいになる明確な軸が必要
- キーワードは「学びの場」であること

### どこで？

- まずコミュニケーションの場をまち中につくる
- まず学校から？
- 商店街の空き店舗をつかったまちなか交流広場で
- 対話をするスタンプラリーで
- やりたい人が、できる所で、ちょこちょこと
- 場所を固定化しない方が良い
- カタチは様々で良い、残ったものを続ける
- 藤沢版ダボス会議に
- 場所より「コト」の方が行きやすい

### ステップアップするために

- 「ひと」も「コト」も循環させる
- 組織の膠着は避けたい
- マネタイズも重要
- みんなが先生、みんなで出資する
- 誰でも出資できるように、小さく出資（こどもも500円から出資できるなど）

## 中島会長

- 従来の都市計画で設けた空間や施設を、どのように場に変えられるかが、テーマになってきていることを実感できた。
- 場には、空間や、多様な関わり方をする人に加えて、仕組みが必要になる。本日のブレスト会議も1つの場であり、ワークショップのプログラムにより創造的な意見が出ていた。
- 「どんな人が、どのような仕組みであれば関わることができるか」の検討が必要になる。空間に仕組みを導入する時は、関与を妨げる既存のルールを見直すような調整まで含めて検討することが重要になる。
- 本日で一区切りとなるブレスト会議において、得られたヒントを受け取り、場を育む都市マスタープランの検討を進めたい。

## 村山副会長

- 人口減少は、活動できる余地が広がるので、前向きに捉えることもできる。
- 本日の意見では、活動の対象地が郊外住宅地や市街化調整区域まで広がっていたので、藤沢市ではあらゆる場所で少しずつ生まれる空いた場所に、活動を展開させていく戦略がふさわしいだろう。
- 場づくりのために必要な要素のうち、土地利用・インフラ・交通のルールや戦略など、行政が主導すべきことは都市マスタープランに明記したい。
- 行政計画ではあるが、住民や事業者、NPO法人、大学なども含めた「みんなのマスタープラン」でもある。本日、多様な立場の方が活動する具体的なイメージが見えて来たので、市民の皆さんが共に場づくりをするための将来の指針であることを記載したい。